

少人数教育の導入にかかる効果検証の方針について（案）

- 質問紙調査と学力調査により、いわゆる非認知面と学力面から、導入の効果を検証する。
 - ・ 25人学級導入前と導入後の学級の状況を比較・分析する。
 - ・ 25人学級導入後の児童の状況を経年で分析する。
- 児童の実態把握にあたっては、紙面での調査とともに専門家による行動観察を実施するなど、専門家の知見を得ながら分析を行う。
- 学校関係者や児童を対象に学習環境や生活環境について把握するための質問紙調査も実施する。

1 検証の目的

- (1) 少人数教育（25人学級）による児童のいわゆる非認知面や学習面への影響を検証すること。
- (2) 少人数教育（25人学級）による授業改善や指導体制の効果について検証すること。
など

2 効果検証の方針

(1) 少人数教育による個人の成長をみる

- いわゆる非認知面・学力面での成長の観点から
 - ・ 個人の非認知能力に関する項目を立て、個人の成長（伸び）を捉える
項目例：「最後までがんばる」、「自分から進んでやる」
 - ・ 学力調査問題により、学力面からの個人の成長（伸び）などを捉える
- 「非認知面の個人の成長」と「学力」の相関関係の観点から
 - ・ 非認知面の成長と学力面の成長の相関関係から個人の成長（伸び）を分析

(2) 少人数教育による教育環境の効果をみる

- 「学級」の状況を把握する観点から
 - ・ 集団生活における項目を立て、学級の状況を捉える
項目例：「力を合わせて取り組む」、「きまりを守る」
- 「学習環境の効果」「生活環境の効果」を把握する観点から
 - ・ 教員や子供への質問紙調査により、きめ細かな指導の効果を捉える
項目例：教員「一人一人の学習状況の把握ができる」
子供「分からないときにすぐに声をかけてくれる」